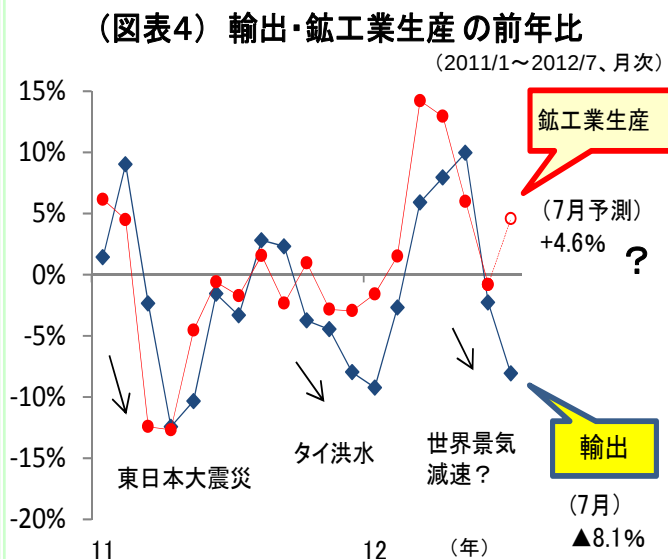
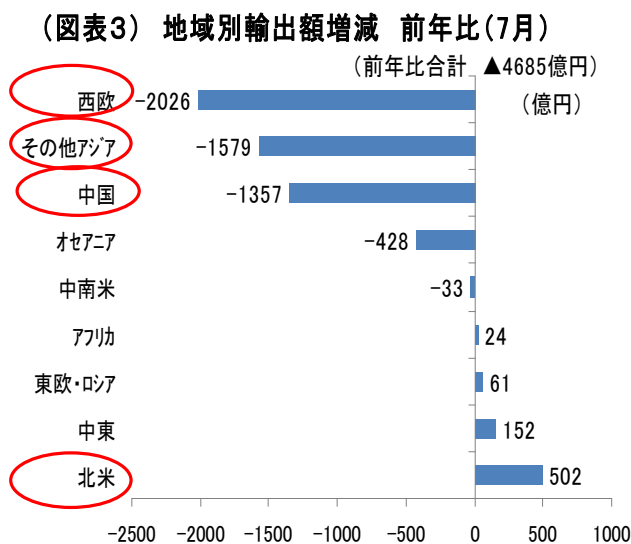
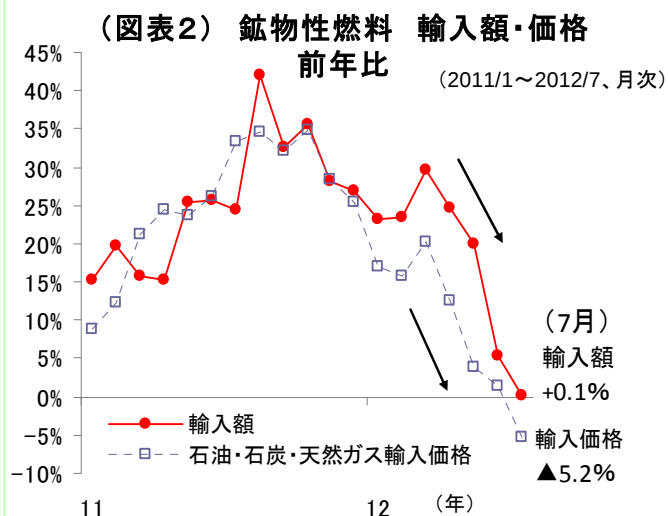
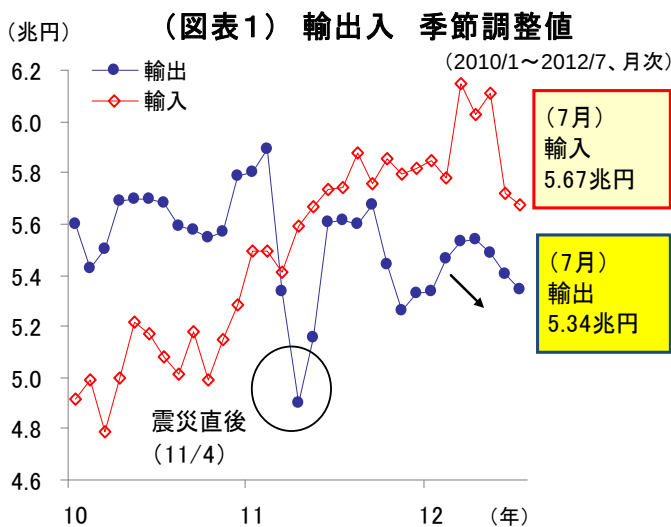


## ～日本の7月貿易統計と国内景気及び為替について～

- ◆8月22日に発表された7月貿易収支は5,174億円の赤字となりました。季節調整値では3,257億円の赤字で、震災直後の昨年3月から17ヵ月連続で輸入が輸出を上回る「貿易赤字」の状況が続いています(図表1)。これまでは、鉱物性燃料を中心とした輸入の急増が赤字の主因でしたが、ここ2-3ヵ月は輸入増が一服する一方、輸出が再び減少に転じている点は、景気の先行きを考える上で要注意といえそうです。
- ◆輸入については、輸入全体の約1/3を占める原油・LNGなど「鉱物性燃料」の輸入額が、価格の低下で前年とほぼ同水準まで鈍化しています(図表2)。一方、原発停止に伴う数量増で、「金額」の伸びが「価格」の伸びを上回る状況も続きそうです。今後の原油価格にもよりますが、「輸入」は現状程度での高止まりが続く可能性も高そうです。
- ◆輸出については、7月地域別輸出額の前年比増減をみると、北米向けが自動車の回復でプラスを保つ一方、欧州・アジア向けが大幅減となっています(図表3)。昨年の輸出減は震災・タイ洪水など一時的要因の影響が大きかったのですが、今回の輸出減は欧州・新興国の景気悪化を反映しており、回復にはやや時間がかかると見られます。
- ◆国内景気への影響については、当面の輸出減が国内生産の鈍化に直結しやすいと考えられます。7月の鉱工業生産は予測では+4.6%と回復が見込まれていますが、7月輸出の低迷をうけて回復ペースが鈍ってくる可能性もありそうです(図表4)。一方、貿易赤字の定着は為替相場における円高圧力を緩和させることで、中期的に景気にプラスの影響を与えると期待されます。



(出所) 図表1～4: 財務省、日銀、経済産業省のデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

〈審査確認番号H24-TB41〉